

【南九州税理士会会長賞】

税は幸せを運ぶ

熊本大学教育学部附属中学校

二年 馬場 智加

「えっ。」

そんな心の声が誰かから漏れた。今、私達は英語の授業でガーナに住む子供達の生活の動画を見ているのだ。最初は緩んでいた教室の空気も次第に重くなっていくのが分かる。自分達が栽培している力カオが何になるかも知らない。朝夕三回ずつ、二十分もかけて今にも破れそうなバケツで茶色く濁った飲み水を汲みにいかなければならない。学校に行きたくてたまらないが、病気の母へ仕送りをするために働かなければならない。しかし、一日中休むことなく働いて得られる収入はほんの一握り。私はそんな生活に衝撃をうけた。私は今自分達が送ることができている生活は決して当たり前ではないことなのだと強く感じた。蛇口をひねれば安全で清潔な水が止まることなく流れてくる。学校に行くことができ、十分な教育を受けることができる。家に帰ると美味しいご飯が迎えてくれる。なぜこのような恵まれた生活を送ることができるのだろうか。私は答えは「税」にあると思う。勿論、両親がいなくてはこのような恵まれた生活を送ることができない。しかし、税は私達が快適に生活するための土台を作ってくれているのだと思う。

日本では、九年間の義務教育があり誰もが平等に教育を受ける権利を持っている。そしてより良い教育のために必要な校舎、黒板、教科書など、教育を無償で提供するために多くの税金が使われている。さらに調べてみると、義務教育には九年間で一人当たり約八百万円以上の税金がかかっていることがわかり、思わず二度見した。そして税は、国民の安心や、健康のため、道路や水道などのライフラインのため、新しい研究や開発のため、災害の復旧のためなど生活に欠かせないものに使われているに加え、ガーナなどの発展途上国への支援金にも充てられているというようにどれも私達の生活に溶け込み、支えてくれているものばかりだと分かった。だが、私は今まで「税」に対しあまり良い印象を持っていなかった。なぜだろうか。それは今までは税といえば「払わされているもの」という印象が強かったからだと思う。しかし、その税金に私達は助けられており、快適に生活することができていることを忘れてはならない。

「塵も積もれば山となる。」

税はこのことわざ通りだと思う。少しずつの税が国民分集まれば強烈なパワーとなり、多くの人を幸せにすることができる。これから私と税との関わりはさらに増えていくと思う。その都度、「自分が受け取った幸せの倍の幸せを誰かに届けたい。」そういう心構えでいようと思う。